

平成30年度 研究紀要

基礎的・基本的な内容を確実に 身に付けた生徒の育成

～見通しを立てて振り返る学習活動を通して～



沼田市立薄根中学校



薄根中学校研究紀要 目次

I 研究の概要

1 研究主題	4
2 主題設定の理由	4
3 研究のねらい	5
4 研究の内容・方法	5
5 研究の組織	5
6 研究の構想	7
7 研究のあゆみ	8

II 各教科の実践

実践1 国語科	10
実践2 社会科	14
実践3 数学科	19
実践4 理科	24
実践5 英語科	26
実践6 音楽科	30
実践7 保健体育科	32

III 研究の成果と課題

1 研究の成果	35
2 研究の課題と解決に向けての取り組み	35

- 資料1 各教科における目指す生徒像及び振り返り活動
- 資料2 授業実践 成果と課題
- 資料3 家庭学習習慣の定着に向けて・・・学習の手引き

I 研究の概要



1 研究主題

基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成
～見通しを立てて振り返る学習活動を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 学校の教育目標とのかかわり

・本校の具体目標は「英知（自ら学び続け、知性を磨く創造性豊かな生徒）」「健康（自ら鍛え、心身共に健康でたくましい生徒）」「友愛（自らに厳しく、思いやりのある、明るく礼儀正しい生徒）」であり、「英知」の具現化を図り、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成を目指す。

・学習指導要領総則にも記されているように、見通しを立てて振り返る学習活動は全ての教科で重点的に取り組むべき課題でもある。生徒が見通しをもてるよう授業を計画し、授業内容について振り返る学習に視点を当てた校内研修を積み重ねて行くことにより、確かな学力を身に付けさせる指導の改善と充実を図る。

(2) 生徒の実態とのかかわり

・本校生徒の特徴として授業に真剣に参加し、教師の与えた課題に対して意欲的に取り組むことができる。昨年度実践してきたためあての提示と振り返り学習の実践を積み重ね、教師・生徒間で振り返る学習活動が自然とできるようになってきたが、教師も生徒も習慣化するにはまだ至っていない。

・主体的に学ぼうとする生徒が一定数いるが、友達の見解をそのまま写してしまう生徒も多い。それは書くことへの見通しが立てられていないことが考えられる。生徒視点での見通しをもたせるためには、指導者の更なる研修が必要である。

・振り返り学習を取り入れた活動は生徒に学びの自覚化・意識化をうながしており、継続的に取り組むことが基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることにつながっていくと考える。

・生徒自信が自らの学習への取り組みを振り返りながら評価・反省することは、学習を行う上での自分の強みや弱点を把握すること（学びの自覚化）ができる。

(3) 教職員の指導の在り方とのかかわり

・指導力の向上のためには、自分以外の授業の参観が効果的である。本校はこれまでも代表授業をはじめ、一人二授業を実践してきており、今年度も互いに授業を見合う中で指導力を向上させていきたい。

・教師主体の「教える（ティーチング）授業」から、学習者が主体となる「学び取る（ラーニング）授業」への視点の転換が叫ばれており、振り返る学習活動はこの学び取る授業に当たる。

3 研究のねらい

各教科の評価項目から、振り返る学習活動で求める生徒の言葉や状態を明確化し、ゴールとする。生徒が見通しをもてるよう授業構成を考え、授業終末場面で授業の内容に関する振り返る学習活動を取り入れた授業実践を繰り返し行っていくことで、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けた生徒を育成する。

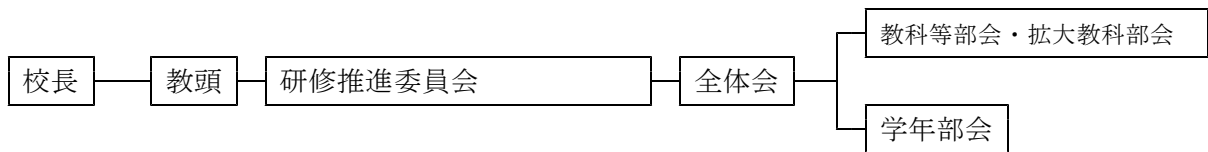
4 研究の内容・方法

- ① 見通しを立てて振り返る学習活動を取り入れる際の手順
- 1…生徒の実態を捉えると共に、各教科の評価項目から、振り返る学習活動でいたい生徒の言葉や状態を明確化する。
 - 2…生徒が1時間の授業の中で「何を学ぶのか」、「どのように学ぶのか」理解し、見通しを立てられるよう授業を構成する。

例) ・めあての明確化 ・生徒が解決したくなるような学習課題 ・学習の流れの提示
 ・疑問が生徒から湧くような活動 ・単元を見通せるシラバス等の活用

- 3…授業の終末場面で振り返る学習活動を行うことにより、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成を目指す。
- ②本時のねらいが達成されたか、変容が見られたか実践を通して検証する。(授業実践：手立ての検証、教科等部会において、一度目で課題を見つけ、改善した授業を積み重ねていく。)
- ③学力検査や調査の問題傾向の周知、結果の分析を生かした授業や指導計画の改善に努める。
- ④学習の手引きを配付して授業でも扱い、家庭学習における学習の習慣が身に付くようにする。
- ⑤授業改善の視点を明確にして、拡大教科部会を中心として指導案検討会・授業研究会を行う。
- ⑥一人二授業を実践することにより自己課題の改善を行う。

5 研修組織



教科等部会		学年部会 (道徳・総合・学活)
国語部会	○大河原、兵藤	1 学年部会
社会科部会	○宮内、遠峯	○藤井、林、藤倉、齋藤
数学部会	○浅見、齋藤	2 学年部会
理科部会	○鈴木、藤倉	○反町、大河原、鈴木、小宮
英語部会	○林、藤井、坂本	3 学年部会
技能教科部会	○反町、小宮	○浅見、遠峯、坂本、兵藤
道徳・総合・特活部会	道徳主任 (遠峯)、総合主任 (大河原)、特活主任 (藤倉)、養護 (倉澤)	

(1) 教科等部会

- ・見通しをもたせ、それを確認する振り返り学習について追究する。
- ・授業実践を計画的・効果的に行う。(授業実践)
- ・家庭学習の仕方について工夫する。(「学習の手引き」の充実・課題の工夫等)

(2) 学年部会

- ・学びあえる学年・学級づくり、学習集団づくりに努め、道徳・総合・学活等の実践を行う。
(道徳教育推進教師、人権教育主任・生徒指導主事・心の教室相談員・SSW・SCとの連携)
- ・家庭学習への取り組みを指導し定着化を図る。(「学習の手引き」の活用、宿題ノート)
- ・学年の時間を効果的に活用する。(自主学習への取り組み指導、補充学習及び学び合い)
- ・規則正しい生活習慣を身に付けさせる。(養護教諭との連携)

6 研究の構想

H30年度 沼田市立薄根中学校 校内研修研究構想図

学校教育目標

知性に富み、たくましく、豊かな人間性を育てる教育を推進し、自ら考え、正しく判断し、実践できる生徒の育成を図る。

- 英知…自ら学び続け、知性を磨く創造性豊かな生徒
- 健康…自ら鍛え、心身共に健康でたくましい生徒
- 友愛…自らに厳しく、思いやりのある、明るく礼儀正しい生徒

〔研究主題〕

基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成

見通しを立てて振り返る学習活動を通して

● **目指す生徒像の確認**

目指す生徒像

- 既習の知識・技能を活用し、根拠や理由を明確にして課題を解決することを通して、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒

● **振り返る学習活動の生徒の言葉や状態を明確化する**

各教科の評価項目から、振り返る学習活動で求める生徒の言葉や状態を明確化し、ゴールとする。別紙「振り返る学習の観点と生徒の姿」参照

● **生徒が見通しをもてるよう授業構成を考える**

生徒が1時間の授業の中で「何を学ぶのか」、「どのように学ぶのか」を理解し、見通しを立てられるよう、以下の中から手立てを考え、授業を構成する

- ・めあての明確化
- ・生徒が解決したくなるような学習課題
- ・学習の流れの提示
- ・疑問が生徒から湧くような活動
- ・単元を見通せるシラバス等の活用

● **授業終末場面で振り返る学習活動を行う。**

授業の終末場面に、学んだ内容を生徒個人が、自身の言葉でまとめる振り返り学習を意図的に設定する。

● **一人二授業の推進**

ねらいの達成を、実践を通して検証する。(手立ての検証、教科等部会において、指導案検討会・授業研究会を充実し、ねらいの達成につなげる。)

教科経営の充実

授業改善

- 教科等部会・拡大教科部会
- 一人二授業実践
- 授業研究会（教科間の交流）

学習の手引きの活用
授業への取り組みの充実
家庭学習の充実

学年・学級経営の充実

- 学び合える学年・学級づくり
- 規則正しい生活習慣の確立

各学年の取り組み

7 研究のあゆみ

学期	主 な 研 修 内 容
1	<p>〔研究と計画〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修主題の設定、研修内容と方法の検討、組織づくり ○学力テストの結果分析、生徒の実態把握、目指す生徒像の検討・設定 ○各教科部会による手だての検討、「学習の手引き」の見直しと生徒への配布・活用 ○「振り返る学習の観点と生徒の姿」について各教科によるまとめ ○情報に関する研修（C4thに関する研修） ○一人二授業実践の推進、授業実践による検証 <p>〔実 践〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内授業研究会Ⅰ「酸とアルカリ」（3年理科：鈴木教諭） ○指導主事訪問A 各教諭 ○授業実践「心身の機能の発達と心の健康 生殖機能の成熟」（1年保健体育：反町教諭）
2	<p>〔研究〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修内容の実践・検証 ○全国学力学習状況テスト 問題分析と本校の特徴まとめ <p>〔実 践〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業実践「平安文化と浄土信仰」（1年社会：宮内教諭） ○授業実践「Unit4-1 To Our Future Generations」（3年英語：坂本教諭） ○指導主事訪問B「私たちの生活と地方自治」（3年社会：遠峯教諭） ○授業実践「大好きな人を、友達に紹介しよう！」（1年英語：藤井教諭・林教諭） ○授業実践「ピラミッドの高さの求め方を考えよう」（3年数学：浅見教諭） ○校内授業研究会Ⅱ「比例反比例の利用」（1年数学：齋藤教諭） ○授業実践「校歌・合唱の歌詞を書こう」（3年国語：兵藤教諭） ○授業実践「古典世界に生きた人々の思い」（2年国語：大河原教諭） ○授業実践「箏を弾いてみよう」（1年音楽：小宮教諭） ○安全に関する研修（消防署職員）
3	<p>〔まとめ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究紀要の執筆・編集 ○研修推進委員会：今年度の研修の反省と次年度の研修の見通し ○今年度の研修の成果と課題の検討 ○次年度の研修主題の検討 <p>〔研修会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育支援研修会 「ニーズのある子どもの困り感に応じた支援」 <p style="text-align: center;">講師 長谷川 健之（群馬県立沼田特別支援学校専門アドバイザー）</p>

Ⅱ 各教科の実践



国語部会の実践

1 ねらいに迫るための手立て

国語科では、今年度の研修主題「基礎的・基本的な内容を身に付けた生徒の育成～見通しを立てて振り返る学習活動を通して～」を受け、他者の考えを知り、自分の考えと比較することで、違いや良さ、足りない部分に気づき、自分の考えを深めたりまとめたりする生徒の育成を目標として、以下のようなねらい作り、振り返り学習を中心として研修を進めてきた。具体的な手立てとして、まず、めあてを明確にし、学習の流れを示すこととした。この手立てから、生徒たちに一単位時間、あるいは単元全体の学習を通してどのような力が身につくのか理解できるようにした。

振り返り学習の場面では、その日の学習内容を次時にどのように生かすかを自分の言葉で書いたり話したりする、また、獲得した知識などから興味・関心を広げたり自分の表現に生かす方法を考えたりすることを求めた。

このような活動を進める上で重視したのは、ねらいと振り返りの整合性を確認することである。授業の導入部（めあての提示）から終末部（振り返り）まで、常にめあてに到達することを意識した授業作りを心がけた。これらの継続的な取り組みをすることで、確実な学習内容の定着が図れると考えた。

2 実践例

実践 1

① 単元名 「古典世界に生きた人々の思い 『平家物語』（敦盛の最期）」（2年）

② 目標

新聞作りのための取材メモを用いながら仲間と交流し、作品中の登場人物像を読み取る。

③ 校内研修とのかかわり

本単元では、基礎・基本を歴史的仮名遣いを確実に習得するとともに、古典学習に意欲的に取り組むことを目指した。よって、単元前半では音読を中心に学習するとともに、平家物語における様々なエピソードを紹介したり、調べさせたりして、単元を貫く言語活動である「平家物語の新聞作り」に活用できる力を身に付けさせた。本時は、「新聞作り」のための読みを深める学習の段階であり、前時までに考えた登場人物に関わる疑問を仲間たちと協議しながら解決しする学習を展開した。ここに至るためには登場人物を客観的に細かく分析したり、ときには感情移入したりしながら読むことが必要である。そのためには、単元の初めから、学習の見通しをしっかりとらせていくことが不可欠である。学習のゴールを「平家物語新聞づくり」と示し、それを完成させるために身につけなければならない学習内容を明確にすることで、意欲的な学習が展開されると考えられる。

④ 授業の概要

学習活動および予想される生徒の反応	時間	支援・指導の留意点および評価
1, 「敦盛の最期」の古文部分を音読する。 ・歴史的仮名遣いや平家物語独特のリズムに注意しながら読んでいる。		・前時までの授業で、生徒たちが読みにくそうにしている部分を把握しておく。教師が範読する際、強調して読み、耳から正確な

<p>2, 既習事項の確認をする。 (概要、登場人物像や時代背景等)</p> <p>3, 本時のめあての確認</p>	10	<p>歴史的仮名遣いとリズムを体得させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項に関して自由に発表させ、活発な雰囲気を作りたい。また、発表されると予想される事項に関しては、カード等を準備するなどし、時間を有効に使えるようにする。
<p>新聞記事作りのための取材（読み取り）を通して、取材対象がどのような人物であったか評価しよう。</p>		
<p>4, 記事のための取材メモを作成する。 【個別学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に考えた取材すべきこと 新聞を充実させるための取材 事実の分析など 事実に対する自分の考え <p>(予想される生徒の反応)</p> <p>A) 時代に翻弄されながら生きた当時の武士の苦悩や葛藤の心情を、原因を追究しながら記述している。</p> <p>B) 教科書に記述されている事実を挙げながら、会話文などに現れている直接的な心情を記述している。</p> <p>C) 記事に載せたい基本的な取材事項も、教科書のどこを見たら確認できるかわからない。</p> <p>5, 自分の新聞記事がより魅力的になるために（読みを深めていくために）他と交流する。 【相互交流】</p> <p>交流前</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分と同じ登場人物について取材している仲間は多いが、その人物についてどのような分析をしているのだろうか。 	30	<ul style="list-style-type: none"> 前時に「敦盛の最期」を新聞記事にする際に記事として載せておくと良さそうなことを考えさせておき、それを確認させる。 前時までに記事の方向性（誰を取材対象とし、それをどう評価するか等）を決めさせておく。また、その際、多種多様な捉えが可能であることを伝えておきたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A) 十分満足 of 生徒への発展的手立て 登場人物の心情を新聞の読者に伝える場合、登場人物のどのような言動を取り上げ、その行動をどのように分析・評価したら魅力的な記事になるか考えさせる。</p> <p>B) 十分満足な状況になるための補足的な手立て 登場人物の置かれた状況や時代背景などを考えさせ、教科書に記述されていない作者の心情なども想像させる。</p> <p>C) おおむね満足 of 状況になるための補足的な手立て 教科書に記述されている事実を現代語訳をもとに丁寧に読み取らせ、仲間と交流させながら確認できるようにさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 学級内の既成のグループ交流とせず、自由に誰とでも、できるだけ多く交流を持てるように促す。 どの生徒がどの登場人物について取材しているのか黒板に提示し、意見を誰に聞きに行くか決めやすいようにする。 また、交流中に注目すべき意見に触れたら、

<ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じ登場人物を取材し、さらにその登場人物について同じ評価をしている仲間は、その評価の理由も同じだろうか。 <p>交流後の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じ意見に触れ、自分の考えに自信をもつようになっている。 ・自分と違う考えに出会うが、相手の考えの根拠に脆弱性を感じ、反対意見を持つ。 ・自分と異なる意見に触れ、修正を試みる。 ・様々な意見に触れ、登場人物の人物像についての考察に迷いが生じる。 	<p>メモを残しておくよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の多面的な価値観に触れるために、前半は自分と同じ意見を持っている生徒との交流を指示し、後半は自分と異なる意見の生徒との交流を指示する。 ・交流相手が探せない生徒には教師が仲間を紹介し、交流できるようにする。 ・「自分の読みを深める」とは、様々な意見や考え方に触れ、自分の考えが変化したり、確信をもてたり、あるいは反対意見を持つたりすることとする。場合によっては迷うこともある。いずれにしても主に登場人物の言動に対して評価させたい。
<p>評価</p> <p>○登場人物の人物像を、本文の叙述から考えることができる。</p> <p>◎登場人物の人物像を、時代背景や登場人物がおかれた状況を踏まえて考えることができる。</p> <p>(評価の方法：ワークシート、発言)</p>	
<p>6, 本時の振り返りとして、編集長である教師に、取材した人物に対する報告をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の命よりも名誉を重んじる敦盛の態度は武士として立派であるが、自分は理解できない。 ・直実は敵将の敦盛を助けてあげようとするなんてとても優しい人物だ。その優しさは、自分を苦しめることになるだろう。 <p>7, 次時の学習の確認をする。</p>	<p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が注目した登場人物について(どういう人物で、自分はどう評価したか)簡潔に発表させる)。 ・意外性のある考えを発表した生徒に対しては、発想の良さを賞賛し、一般的な考えを発表した生徒に対しては、その堅実な読みを賞賛したい。 ・うまくまとめられない生徒には、補助発問をし、報告が充実するようにする。 ・本時の取材内容をもとに新聞にまとめていくことを伝える。

⑤ 実践を終えて

本実践では古典文学である平家物語の『敦盛の最期』を通して、「文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる能力」「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像する能力」を身につけたい言語能力として授業を展開した。また、単元を貫く言語活動として「敦盛の最期新聞づくり」を設定した。

前時までに「敦盛の最期」の基本情報(登場人物や時代背景など)を確認しておいたが、この学習を生かしながら次時の最終的な新聞作りに繋げていくことを伝えたことで、学習の目的がはっきりし、熱心に授業に取り組んでいた。本時では、さらに踏み込んで登場人物の心情や人物像に迫りたいと考え、話し合い活動を取り入れながら読み取りを深め、新聞として紹介したい記事を考えることができた。振り返りの場面では、自分が取り上げた登場人物に対する評価などを紹介させたが、生徒同士の、登場人物に対するさまざまな捉えを確認することができ、読みが深められた。

⑥ 生徒の変容

あらかじめ単元を貫く言語活動として「敦盛の最期新聞作り」を示したことで、学習意欲が高まった。具体的には、新聞作りのための教科書の読み取りが深められることができた。これらの結果から、他の単元においても、一単位時間ごとのつながりを意識しながら、授業に取り組むことができるようになってきた。

3 実践の成果

- 取材メモを用いて交流活動したことで様々な意見交換ができ、活発な活動ができた。また、交流によって、自分の考えに迷いが出たり、確信がもてたりするなど、読み取りが深められた。
- 振り返りの場面で、登場人物に対する学習者の自由な評価を発表させたことで、生徒個々の読み取りを深めることができた。
- 単元を貫く言語活動として「敦盛の最期新聞づくり」を設定した。これを単元導入時に示し、学習の見通しを立たせたことで、単元全体のゴールのために何をすべきか、生徒が主体的に学習に取り組むことができた。

4 今後の課題

- ゴールとしての「新聞」が、生徒たちにイメージし切れていないところがあった。教師がつくった「模範新聞」を提示した方がよかった。
- 交流の話題になる「疑問点」が難しく、人物像の根拠が弱いまま交流活動に入ってしまった。人物像をあらかじめしっかりとめさせてから、その根拠となる「疑問点」を考察させていくべきであった。

社会科部会の実践

□

1 □ねらいに迫るための手立て

□社会科部会では目指す生徒像をア.「様々な社会的事象を組み合わせて自分の意見・考えをもつ生徒」イ.「課題を意欲的に解決する生徒」ウ.「資料をもとに読み取り考えたことを、言葉や図表を使って振り返ることができる生徒」の3つに設定し、日々の授業を中心に実践してきた。

□特にウについて授業のめあての設定に対して、提供した資料をもとに読み取り考えたことを、生徒自らの言葉で説明したり図表を使って他の生徒や教師に説明できるようになることが授業で分かったことにつながる振り返りの学習であると考え ICT を取り入れた資料提示やワークシートや対話する授業を実践してきた。

2 □実践例

実践 1

① 単元名 「地方自治と私たち」

② 目標

沼田市をより良いまちにする取り組み・提案を考え、多面的・多角的な観点から助言したり、より良い提案を選んだりすることができる。

③ 校内研修とのかかわり

今年度『基礎的・基本的な内容を確実に身につけた生徒の育成～見通しを立てて振り返る学習活動を通して～』をテーマとして校内研修に取り組んできた。社会科では、目標とする生徒の意識を示すことで、生徒のふりかえり活動でまとめてほしいことを把握しておき、指導に生かしてきた。さらに、NRTの結果から、資料活用を通して社会的な事象を総合的にとらえることが十分ではないことがわかった。そこで「資料をもとに読み取り考えたことを、言葉や図表を使って振り返ることができる生徒」を目指す生徒像に掲げた。分かったこと・できるようになったことを表現させる振り返り学習を活用して「様々な社会的事象を組み合わせて、自分の意見・考えをもつ生徒」の育成を目指している。また、本時では生徒に見通しをもたせるため、授業の導入部分で多面的な見方について説明をする。

④ 授業の概要

学習活動	時間	生徒の活動	活動への支援・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 ○カジノを例に魅力や活力の方向性について考える。	5分	・沼田市を魅力や活力ある町にするための対策や方法を考える話し合いをする。 ・人・もの・お金が集まることは魅力の一つであるが、例えばカジノを沼田に作るのは適切なプランと言えるのか疑問に思う。 ・多面的とは沼田市の住民の立場からの見方や市役所の立場としての見方、観光客としての見方というように立場を変えた見方のことを言うんだな。	○「魅力あるまち」や「活力あるまち」とはどんなまちかを提示し、話し合う視点を明確にする。 ○中学生が考えたプランであっても多くの賛同を得るような良いプランは、当然沼田市として採用される可能性があることを伝え、多面的・多角的にプランを考えたり、話し合ったりするように伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習のめて 沼田市を魅力や活力あるまちにするにはどうすればよいか考えよう。 </div>			

<p>2 沼田市を魅力や活力あるまちにしていくプランを考える。</p> <p>①グループ討議 (5分)</p> <p>②全体討議 (28分)</p> <p>班提案：16分 8班×2分</p> <p>全体協議：12分</p>	<p>・(例)大河ドラマの真田氏で全国的にも沼田の知名度はあるので、真田氏が建設した沼田城を再建する案はどうか。</p> <p>・再建費用はどうやって捻出したらいいのだろうか。</p> <p>・沼田城を再建する案だけでなく、その費用をどう捻出するかも、みんなに提案できると良いのではないか。</p> <p>・沼田城だけでなく、上毛カルタにある塩原太助や杉木門左衛門などの歴史とコラボレーションして歴史の町「沼田」を巡るツアーとして提案してはどうか。そうすれば、沼田市に観光客が宿泊したり、様々な交通機関を利用することにつながるだろう。</p> <p>・沼田市の住民ととどのような関わりが持てるだろうか。</p> <p>・(例) 沼田城を再建して、上毛カルタで取り上げられている風景や史跡、人物と沼田城を連結して、歴史の町「沼田」と発信して観光の目玉にしてはどうか。</p> <p>(例) Aクラウドファンディングなどの寄付金を活用したり、ボランティアを募るなどしたりして、建設・保全・管理に積極的に住民が参加できるようにしてはどうか。</p> <p>B 沼田市の予算で作るのは、金額が大きすぎるので、ふるさと納税をもっと活用して税金を集めて建設したらどうか。</p> <p>C 沼田城ができれば観光の目玉になるので、観光客が増えるのではないか。</p>	<p>○前時までに決まったグループの代表意見をホワイトボードに書かせる際には、グループで話し合わせ、より魅力的なプランとなるようにする。その際、「沼田市の財政状況」「実現可能性」と「経済効果」などの観点から多角的に検討させたり、沼田市の住民としての見方や市の担当者としての見方など多面的に効果を検証するように伝えるなどして、プランを再検討させたりする。アドバイスを付け加えさせたりする。</p> <p>○提案を発表させる際には、提案の「理由」「内容」や「経済効果」、「実現可能性」などを重視して発表させる。</p> <p>○各班ごとの発表については発表 2分として、プランの良さを説明させるようにする。</p> <p>○他のグループの提案を検討させる際には、さらに提案を良くする視点で意見を述べさせる。</p> <p>○住民参加の手法を賞賛し、ディズニーランドですら訪れる人の6割は関東在住である例を引き合い出し、地元で愛されるシンボリックな施設にならないと、長続きしないことを助言する。</p> <p>○沼田市の財政状況について気づいたことを賞賛し、建設費の捻出方法には他にはないか助言する。</p> <p>○アイデアの素晴らしさに共感するとともに、姫路城の建設費が試算でおよそ400億円から500億円かかるという例を引き合いに出しながら、実現のための費用や住民参加の方法について、どのようにして実現していくか助言する。</p>
<p>【社会的な思考・判断】評価項目 沼田市をよりよいまちにする取り組み・提案を多面的・多角的な観点から考え、より良い提案を選ぶことができた。【ワークシート・発言】</p>		
<p>③代表決定</p>	<p>・自分の班以外で最も良い案にマグ</p>	<p>○学級代表を選ぶ際には、自分の</p>

(2分)	ネットを貼り付けよう。	班で提案したもの以外の中から選ぶ、ビブリオバトル形式で代表を決めさせる。
3本時をふりかえる。	10分 ・沼田市を良くする様々な案を提案していくために、具体的にどのような政治参加の方法があるか調べてみたい。 ・沼田市の住民として市に働きかけて沼田市をもっと魅力あるまちにするために協力していきたい。	○「地方自治は民主主義の学校」と言われるように、自分の住む自治体に積極的に関わりながら政治参加していくことが地方自治で最も大切な姿勢であることを確認させる。

<p>〈目標とする生徒の意識〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沼田市を良くするには、まず第一に沼田に暮らす住民のためになるような政策や開発が大切であり、さらに沼田にある歴史や自然等を生かす企画やイベントを発信していくことが大切なんだ。 ・住民の立場からだけでなく、市の立場から見たらどうか、また観光客の目線で見たらどうかというようにいろいろな立場から見るのが大切で、その見方から助言することが大切なんだ。 ・沼田市に住んでいたけれど、自分で気付かないたくさんの魅力が沼田市にあったんだな。その魅力をアピールしたり、工夫したりすることで、沼田市はもっと良くなるし、具体的に市の政治にどう生かしていくのか、その方法をもっと調べてみたい。
--

⑤ 実践を終えて

- 教師が見本を示しながら提案をすることで生徒の興味を引きつけながら、見通しをもたせて本時の活動に取り組めることができた。
- 各班の提案を考察する場面では、生徒が積極的に意見を述べたことで、住民の立場や行政の立場など多面的に考察することができた。
- 目標とする生徒の意識を教師が持つことで生徒の意識を見通しながら、授業展開したり、振り返らせることができた。

⑥ 生徒の変容

- 授業導入時に活動の説明や先生の提案があったことで、本時の活動についてよく分かった。生徒は見通しを持つことができた。
- 目標とする生徒の意識を記述し、生徒がそれに近い振り返りを書くことができた。単元を通した目標の設定もあり、既習事項をうまく活用した内容の濃い意見を生徒が出すことができた。
- ビブリオバトルの結果を更に深められるとよかった。時間の関係もあるが、意見交流後の活動などがあると生徒の意見を更に検討することができる。

1. 本時の学習 平安文化と浄土信仰

- (1) 本時の目標：国家の内外、社会の変化・混乱に応じて仏教にどのような新しい流れが生まれたかを理解する。
- (2) 準備：プロジェクター、PC、教科書、地図帳、国語辞典、ワークシート
- (3) 展開：

過程	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
----	--------	-------------

(時間)		
つかむ 8分	1. 平安時代新しい仏教の宗派が2つ伝わったことを復習する。	◇天台宗(最澄)、真言宗(空海)がどのような仏教であったか、復習し確認すると共に、どのように変化するか、予想をさせる。
追究する 35分	2. 「餓鬼」とは何か。 3. 摂関政治が行われるようになり、優れた文学作品が多く生まれたのになぜ「餓鬼」が出てくるような時代になったのか。 4. 「世も末」「末法思想」とはどのような社会であったか。調べたことを発表させる。 5. 藤原道長の時代の都の様子について確認する。 6. 「世も末」「末法思想」と人々が思う中で仏教はどう変化するかワークシートにまとめる。	◇辞書や資料集を使って意味を調べさせ生徒を指名して発表させる。 ◇映像を投影する。 ◇資料集や教科書から「世も末」「末法思想」などのキーワードから、当時の社会の様子を調べさせる。 ◇今回グループ活動はさせず、個人で調べたことを発表させ、質問や意見があれば相互に意見交換をさせたい。 ◇放火で焼けた事件、天皇の宮殿が7回焼ける事件、伝染病が流行して貴族がたくさん死亡した事件があったことなどから「世も末」「末法思想」の社会を連想させる。 ◇ワークシートを配布して、平安時代の中頃から社会がどのように変化して仏教がどのように変化するかを大きく3つにまとめさせる。 ◇平等院鳳凰堂を投影する。
まとめる 7分	7. 本時の学習について振り返る。	◇本時の学習で分かったこと、分からなかったことなど、振り返る。 ◇人里離れた山奥で学問や厳しい修行をしていた仏教が伝染病や火災などで苦しくてはかない乱れたこの世から、極楽浄土へという仏教へと変化したことが言えれば良い。

【評価項目】

○おおむね満足：乱れたこの世から、極楽浄土へ。

◎十分満足：人里離れた山奥で学問や厳しい修行をしていた仏教が伝染病や火災などで苦しくてはかない乱れたこの世から、極楽浄土へという仏教へと変化したこと。

(観点・評価方法)

ワークシート、資料、発言・発表

⑤ 実践を終えて

○学習の流れが分かるようワークシートを作成し活用したことで思考する時間がとれた。振り返り活動で生徒の到達点を教師側で用意したことで生徒がどこまでできれば良いかが予想できた。

⑥ 生徒の変容

○課題解決的なめあてを設定したことで、生徒は教科書や資料集から見通しをもって調べる活動をすることができた。振り返りにもその姿は見られた。

3 実践の成果

- 授業導入時に活動の説明や先生の提案があったことで、本時の活動についてよく分かった。
生徒は見通しを持つことができた。
- 目標とする生徒の意識を記述し、生徒がそれに近い振り返りを書くことができた。単元を通した目標の設定もあり、既習事項をうまく活用した内容の濃い意見を生徒が出すことができた。
- 授業終末の振り返り活動において、生徒に到達して欲しい姿を指導案に現したことで授業の内容もしぼって授業をすることができた。

4 □今後の課題

- ビブリオバトルの結果を更に深められるとよかった。時間の関係もあるが、意見交流後の活動などがあると生徒の意見を更に検討することができる。
- めあてを提示するとき、前の時代の仏教と比較できると本時の振り返りに生かせた。

数学部会の実践

1 ねらいに迫るための手立て

数学科では目指す生徒像を「主体的に学習に取り組み、既習の知識や考え方等を活用して、課題解決に取り組む生徒」とした。研修主題「基礎的・基本的な内容を身に付けた生徒の育成」を図るために、めあての提示の工夫と振り返り学習の効果的な活用の仕方に取り組んだ。

めあての提示

- ・本時の学習で身に付けさせたい力や考え方を意識した課題設定を行い、本時の学習課題を自分のものとし、解決の見通しをもつことができるようにする。
- ・課題解決に向けた数学的活動に取り組むために、生徒の気付きをもとにめあてを設定したり、生徒の活動の方向性が定まるよう具体的なめあての提示に努めたりした。

振り返り

- ・授業で学んだ用語や板書等のキーワードをもとにして、本時の学習過程や学習内容について自分でまとめ、表現する学習活動を振り返り学習とした。学習カードの活用や、授業後の感想及び意見交換を通して振り返る場面を設定した。

2 実践例

実践 1

① 単元名 「相似」 (3 学年)

② 目 標

実測することが難しい高さなどを、相似な図形の性質を利用して、縮図を用いた方法を考えることができる。

③ 校内研修とのかかわり

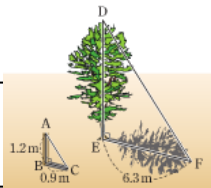

生徒が興味関心をもって意欲的に課題に取り組むとともに、解決の見通しをもつことができるようにするため、本時のめあてを「相似な図形の性質 (相似な図形では、対応する線分の長さの比が等しい) を利用して、ピラミッドの高さの求め方を考えよう。」と設定した。課題の解決方法を考察する活動についての感想を発表する活動を通して振り返りを行った。めあてをもとに、解決のための見通しをもち学習課題を把握させることによって、既習事項をもとに試行錯誤するなど、数学的活動に取り組み、課題解決を図らせた。

④ 授業の概要

これまで学習してきた相似な図形の性質について振り返りながら、相似な図形を利用して、課題解決の方法を考える。本授業では、ICTを用いて課題などを提示し、相似な図形の性質を利用して、ピラミッドの高さを求める方法を考える。本時の振り返りによって、本時のねらいが達成できているかを見取るとともに、今後の学習を意欲的に進められるようにする。

○展開

学習活動	時間	指導上の留意点
本時の課題を知る	5	グループで相談させ、思った方法を答えさせる。
エジプトのピラミッド、クフ王の墓は1辺が230mもあるそうです。今から2600年も前に、ギリシャのタレスは、簡単な計算でこのピラミッドの高さを求めたそうです。		

次の問題を提示し、本時のめあてを確認する	15	
<p>右の図のように、長さ 1.2m の棒 AB の影 BC の長さが 0.9m であるとき、そばに立っている木 DE の影 EF の長さは 6.3m であった。木の高さ DE を求めよう。</p>		
<p>(めあて) 相似な図形の性質 (相似な図形では、対応する線分の長さの比が等しい) を利用して、ピラミッドの高さの求め方を考えよう。</p>		
<p>○ $AB : DE = BC : EF$ となった根拠を考える。</p> <p>○ $\triangle ABC \sim \triangle DEF$ となった根拠を考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題に対する見通しをもたせる ・図から、$1.2 : x = 0.9 : 6.3$ の比例式を立てた生徒に対してその根拠を答えさせ、全体に相似な図形の性質を利用したことを理解させる。 ・2つの三角形が相似となる根拠を考えさせ、その証明を書かせる。(個人で考える、グループで考える)
<p>○ピラミッドの高さを求めるために、どうすればよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具 ・必要な条件 ・測定する場所 	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに、必要な道具、必要な条件、測定する場所やイメージ図を書かせ、発表する。 ・ピラミッドの高さの求め方が確認できたら、棒やピラミッドの影の長さなどを提示し、実際に求めさせる。 
<p>○今日の授業を振り返り、感想を書かせ、発表させる。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・相似な図形を利用すると、実際に測るのが難しい場合でも求めることができるんだ。 ・相似な図形を利用して、学校の校舎の高さを求めてみよう。
<p>【評価項目】</p> <p>○相似の考えを利用して、高さを求める方法を考えることができる。</p> <p>◎相似の考えを利用して高さを求める方法を考察し、その結果が適切であるかどうかをふり返って考えることができる。</p>		

⑤ 実践を終えて

- ねらいを達成するために、授業の感想をもとに振り返りを行った。ピラミッドの高さを求める際のポイントを再確認できるような振り返りの時間が十分確保できるとよかった。
- 追求場面を効率よく展開できるよう ICT の導入を進めているが、実物を用意するなど多様な手だてを用意し、生徒の思考を促せるようにしたい。
- 一授業目では、ねらいを達せするためのめあてや課題設定の仕方を工夫し、生徒が主体的に授業に臨めるようにした。二授業目では、見通しをもてるよう具体的なめあてを提示し、学習課題の解決に適した数学的活動に取り組みせるようにしたい。

⑥ 生徒の変容

めあてを確認することで、実測することが不可能な場合でも、相似な図形の性質を利用することで長さを調べようとしていた。その際、単に「相似だから」ではなく、「2つの角が等しい三角形だから相似」と確認することで、様々な条件を考慮して考察した。「自分の家の高さ」「他の有名な建物」などの高さもわかるんだな、調べてみたいといった感想も見られ、数学を利用しようという意識が高まった様子が見られた。

実践2

① 単元名 「比例と反比例」 (1学年)

② 目 標

ビーズの個数と重さの関係の問題を比、例の表、式、グラフを用いて、説明することができる。

③ 校内研修とのかかわり


生徒が興味関心をもち、解決の見通しをもつことができるようにするため、本時のめあてを「比例を利用してビーズ1個の重さのもとめ方を説明しよう」と設定したり、実物のビーズを全員に配ったりして、課題の解決方法を考察した。また、めあてと結びつくような振り返りにするために、めあてを提示した段階で、振り返りに書くことを確認した。

④ 授業の概要

これまで学習してきた比例について振り返りながら、比例を利用した課題解決の方法を考える。本授業では、ICTを用いて課題などを提示したり、実物のビーズを生徒に配ったりして、ビーズの個数と重さの関係を求める方法を考える。本時の振り返りによって、本時のねらいが達成したことを見取るとともに、今後の学習を意欲的に進められるようにした。

○展開

(3) 展 開

時間	学 習 活 動	支援及び指導上の留意点・評価
導入 (5)	<p>1 問題を把握し、解決するためにはどんな条件が必要かノートに記述する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問題 同じ種類のビーズがたくさんあります。齋藤先生はビーズ一個の重さがどの程度か知りたいと思いました。精密なはかりはありません。重さを知るためにはどのような工夫をすればよいのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・求めたいものは何なのか。 ・ビーズ一個の重さを量ればよいのか。 ・軽すぎではかりが反応しないから量れないのか。 ・たくさんのビーズを量ったら、一個分の重さを導き出すことができるのではないのか。 ・ビーズ10個の重さや、100個の重さがあると求められるのではないのか。 ・比例を使えば解決できるのではないのか。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 比例を利用してビーズ1個の重さのもとめ方を説明しよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちにビーズを1個ずつ配り、実際に手にすることで問題をイメージさせる。 ・問題の内容を見通せるようにするために、求めたいものは何かを問いかける。 ・問題の内容を見通せるようにするために、なぜはかりで量ることができないのか、どうやったら量ることができるかを問いかける。 ・課題解決に必要な関係する数量を挙げさせることで、条件が意識できるようにする。 ・他にどんな条件があればビーズ1個の重さが求められるか、見通しをもたせる。 ・見通しをもたせるために、「振り返りではどのようなことをすると思う」と問いかける。

<p>展開 (35)</p>	<p>3 課題1を設定し、解決する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題1</p> <p>問1 同じ種類のビーズがたくさんあります。ビーズ100個の重さが10gであるとき、次の問いに答えなさい。</p> <p>(1) ビーズ500個の重さを求めなさい。</p> <p>(2) ビーズ1個の重さを求めなさい。</p> <p>(3) ビーズx個の重さをygとするとき、yをxの式で表しなさい。</p> </div> <p>○1人で解決する。</p> <p>○グループで解決する。</p> <p>○2名ほどが全体に説明する。</p> <p>4 課題2を設定し、解決する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの考えがもてるようにする。 ・グループ活動において学習が深められるように、自分なりの考えをもたせてから取り組ませる。 ・yをxの式で表すことで悩んでいる生徒
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題2</p> <p>ビーズ1個の重さを知るためにはどうしたらよいか説明しなさい。</p> </div> <p>○グループで考える。</p> <p>○2名ほどが全体に説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明することに抵抗感を感じている生徒を支援するために、表、式、グラフを使ってもよいことを伝える。 ・より深く思考させるために、早く終わったグループには、他にどんな説明ができるかを考えさせる。
<p>まとめ (10)</p>	<p>5 ふりかえりをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビーズ1個の重さを知るためにはどうしたらよいか説明しなさい。 <p>先生問題</p> <p>ある液体20Lの重さを量ると16kgでした。この液体90Lの重さを求めなさい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認することで、めあてに沿ったふりかえりをできるようにする。 ・次回への見通しをもたせるために、今回は比例の利用に取り組んだことを確認し、次回はどういうことをやるかを想像させる。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事象を比例・反比例の見方や考え方を生かして考察することができる。 「数学的な見方や考え方」(振り返りカード) </div>

⑤ 実践を終えて

- 具体物やICTを用いることで興味を引きつけることができた。また、めあての一部を（ ）にすることで、生徒に考えさせたり、比例を強調したりすることに繋がった。
- もとめ方の説明を考えさせる際に、個別で考える時間を設けるとよかった。

⑥生徒の変容

めあてを確認することで、比例を利用し、ビーズの個数と重さの関係を調べようとしていた。普段だと答えを導き出して終えていた生徒が、図や表などを使ってわかりやすく説明している記述があった。

3 実践の成果

- 昨年度の成果をもとに、めあてを提示するタイミング、めあてに使う文言の精選、めあてに生徒の気付きを取り入れる等、めあての提示の仕方を工夫をすることで、生徒が本時の課題を自分のものとしてできるよう工夫を重ねることができた。生徒は課題を自分のものとすることで、既習事項をもとに試行錯誤したりグループで積極的に意見交換したりすることができた。
- 試行錯誤や意見交換に積極的に取り組むことが、目指す生徒像に迫る振り返り学習につながる様子が授業中に見られた。一年を通して振り返りの時間を積み重ねることで、学ぶことに対する興味や関心を持ち、主体的な学びにつながるので、効果的な振り返りができるよう今後も研修をしていきたい。

4 今後の課題

- めあてを工夫して提示したことで、生徒が目的意識をもって課題に取り組む姿が見られた。しかし、めあてを達成するための指導内容の工夫や効果的な話し合い活動などについて、更なる工夫・改善が必要である。
- 振り返りの時間が十分に確保できずに授業が終わったり、振り返りに時間の多くを費やしてしまったりするなど、意図的・計画的に振り返りの時間が設定できるようにしたい。
- 振り返りを通して不思議に思ったことなどを通して、より発展的な学習への取り組みを促し、数学を活用することのよさや自主的、自発的な学習の促進を図りたい。

理科部会の実践

1 ねらいに迫るための手立て

理科部会では目指す生徒像を「自分の考えをもって人に伝えたり、友達のことを聞いて比較したりしながら、自分の考えを深めていくことのできる生徒」と設定した。また、振り返り学習については「事象や現象を自らの言葉で表現する学習」と定義した。理科が対象とする言語には、科学用語、概念を説明する言葉、化学式やモデル、表やグラフなどがあげられる。「言語」を駆使しながら互いに意見交換し、自らの考えを深めていけるような場面を設定していくことで、学習内容に対する理解が一層深まるであろうと考えた。特に、授業終末部分での振り返り学習については、学習してきた内容を自らの言葉でまとめることでその内容をより深く理解することができ、基礎基本の定着にもつながると考える。

2 実践例

実践

① 単元名 『化学変化とイオン』（3年 酸、アルカリ～酸性、アルカリ性の正体とイオン～）

② 目標

酸性、アルカリ性の水溶液中のイオンの性質に着目し、実験を通して酸性、アルカリ性の性質をもつイオンを見いだすことができる。【科学的思考・表現】

③ 校内研修とのかかわり

この実践では、酸性の元となる水素イオンと、アルカリ性の元となる水酸化物イオンを今まで野学習から予想し、生徒は見通しを持って実験に取り組み、見いだした水素イオンと水酸化物イオンについて自分の言葉でまとめる。予想場面が、生徒にとっての見通しとなり、終末場面の自分の言葉でまとめる活動が、振り返り活動となる。

④ 授業の概要

過程(時間)	主な学習活動	指導所の留意点及び支援 ※努力を要する生徒への指導の手立て ○おおむね満足した生徒への指導の手立て
つかむ 5分	1. 酸性とアルカリ性に共通の性質を確認し、水溶液中のイオンについて考える。	・酸性、アルカリ性には電流が流れ、電解質であったことを復習する。 ・酸性は塩酸、アルカリ性は水酸化ナトリウムのイオンを取り上げる。
10分	めあて：①酸性を決めるイオンを見つけよう ②アルカリ性を決めるイオンを見つけよう	
	2. 実験の内容を確認し、水溶液中で電離しているイオンについて考え、電流を流すとどうなるか予想する。 3. 予想を発表し、イオンと酸性、アルカリ性がどのように関係するか見通しをもつ。	・イオンをモデルで表し、それぞれの電極にどのイオンが移動するか捉えられるようにする。 ・それぞれの班の考えを聞き、イオンの移動と実験への見通しをもつ。
追究する 10分	3. イオンの移動の実験を行い、結果を記録する。	・塩酸、水酸化ナトリウムの扱い、電源装置の使い方 に注意させる。 ・実験をしながらイオンについて考えられるように予想と比較しながら実験できるようにする。
10分	4. 水溶液中のイオンと酸性、アルカリ性との関係についてまとめ、考	・結果を全体で確認する。 ・考察文は個人で書く。

	察に書く。	
	【評価項目】 科学的な思考・表現 ○実験結果から明らかになったことや自分の予想に対して考察にまとめることができる。 [ワークシート・発言] (◎根拠をもって)	
まとめる 10分	5. 考察を発表し、酸性には水素イオン、アルカリ性には水酸化物イオンがそれぞれ関係していることをモデルでまとめる。	・生徒の発表からまとめられるようにする。 ・多様な意見が出てきた場合は生徒と共に妥当性を検証していく。
5分	6. 本時を振り返る活動をする。	

⑤実践を終えて

授業検討会では、当初「酸性とアルカリ性の正体を確かめよう」というめあてであったが、生徒にとっては分かりにくいのではないか、という意見をいただき、検討した。結果として「酸性を決める」という表現が生徒にも分かりやすく、生徒の探すものが明確となった。

実験結果が出た後で、そのまま生徒の考察場面としてしまったが、まとめや振り返りの段階で、最初の説明に使用した図に戻って活用できるとよかった。また、硫酸ではどうなるだろうか、という発展的な問題を出してしまったが、一度全体で確認した後で提示した方が良い問題であった。振り返りについては、段階を見ながら問題を出す順番が大切になることが明らかになった。

3 実践の成果

○見通しを持たせるために、生徒にイメージ図を活用したことで、話し合い活動が活発となった。また予想場面を設定したことがその後の実験もスムーズにしていたので、今後もこの流れを大切にしていきたい。振り返りについては生徒の言葉でまとめる活動をこれからも大切にしていきたい。また、発展的な内容については慎重な取り扱いをしていきたい。

4 今後の課題

○時間はかかるが、実験前に予想、そして実験後に考察場面をそれぞれ設定していくことで、生徒は少しずつ考え方を身に付けていけるので、活動の流れをこれからも大切にしたい。

実践5 英語科

1 ねらいに迫るための手立て

本校の研修主題は「基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成～見通しを持たせる授業の「ねらい」づくりと振り返り学習を通して～」である。

本校英語科では、目指す生徒像を「既習事項等を活用でき、コミュニケーションなどの言語活動に主体的に取り組む生徒」とした。また、見通しを立てるための手立てとして、①本時のゴールの掲示②必然性のある課題設定③本時の流れの掲示④単元を見通せるシラバスの活用、を英語科における見通しを立てる活動とした。さらに、振り返る活動を、「授業や単元のゴールにあたる週末部分において、シラバスで提示した『ねらい』に沿って、授業を通して分かったこと、できるようになったこと、これからやってみたいことなどについて振り返り、自分の言葉でまとめる活動」と確認し、本年度の研修をスタートした。

2 実践例

実践1

① 単元名 New Horizon English Course 1

「大好きな人を友達に紹介しよう！」(Unit 6)

② 目標

一般動詞の三人称単数現在形を正しく用いて、第三者についての紹介を聞いて理解したり、相手に紹介することができる。

③ 校内研修とのかかわり

見通しを立てるための手立てとして、単元のゴールを「大好きな人を友だちに紹介しよう！」とし、生徒が意欲をもって取り組めるようにした。また、シラバスに沿った毎時間の活動で、ゴールで使える表現を少しずつ書きためて行くことで、全員が大好きな人の紹介文を書けるようにした。

④ 授業の概要

(1) 本時の目標

○一般動詞の三単現形を正しく用いて、第三者について紹介文を書くことができる。

(2) 展開

課程 (分)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援	
		T 1	T 2
つ か む (15)	○あいさつ ○ウォームアップ ①インプットカード ②キーセンテンスカード ○三単現形復習 like or likes game ○本日のめあて確認	・テンポ良く繰り返し、口頭表現させることで、既習事項の定着と語彙力の向上を図る。 ・ゲーム感覚で繰り返し三単現の復習をすることで、三単現の-(e)sがつく条件を定着させる。	・教室前位置で、生徒の口の動きを観察し、しっかり声を出すように支援する。 ・チーム対抗ゲームの補佐をする。
		○大好きな人の紹介文をたくさん書こう！	

<p>追 究 す る (15)</p>	<p>○担任の先生について紹介文を書く。(ワークシート)</p> <p>○担任紹介文を発表する。</p> <p>○大好きな人の紹介文を書く。</p>	<p>・ペアで活動させることで、全員が活動に取り組めるようにする。</p> <p>・担任の先生の情報を得るには、担任本人にDo you ~?で質問するように促すことで、既習事項の復習を図る。</p> <p>・友だちの書いた担任紹介文を発表させ合うことで、大好きな人紹介文の表現を豊かにさせる。</p> <p>・あらかじめ各自の大好きな人を決めさせておくことで、すぐに活動に取りかかれるようにする。</p> <p>・個別支援 (廊下側中心)</p>	<p>・下位群の生徒に、個別支援。</p> <p>・生徒からの質問に英語で答える。</p> <p>・板書。</p> <p>・個別支援 (窓側)</p>
<p>【評価項目】 外国語表現の能力</p> <p>○例文 (担任についての紹介文) に使われている一般動詞を用いて、大好きな人の紹介文を正しく書ける。</p> <p>◎例文以外の一般動詞を用いて、大好きな人の紹介文を正しく書ける。</p> <p>(ワークシート)</p>			
<p>ま と め る (20)</p>	<p>・ワークシートで既習内容をまとめる。</p> <p>・キーセンテンスを振り返りシートに書く。</p> <p>・本時の振り返りをする。</p>	<p>・解答時間を設定することで、集中して取り組ませる。</p> <p>・英文のルールを守りながら、丁寧に書くように促す。</p>	<p>・机間支援</p> <p>・解答板書</p>

⑤ 実践を終えて

本時は、一般動詞の三人称単数形を用いて「大好きな人を紹介する」という、単元のゴールに向けて紹介文を書くことがねらいであった。授業の最初に、ゲーム形式で一般動詞三単現形の作り方を振り返り、生徒全員が知っている第三者である担任についての紹介文を全員で確認した。そのことで、各自の大好きな人を書く活動にスムーズに取り組めたと思う。また、単元全体では、1時間目に単元のゴールを知らせたことで、生徒は「だれを紹介しようか」真剣に考え、本時の振り返りには「もっとしっかり情報を調べておけばよかった」などの記述があるなど、意欲的な取り組みが見とれた。単元最終時の発表会では、下位群生徒も生き生きと自分の大好きな人について紹介することができ、また友だちの発表も興味をもって聞き、理解することができた。全体にたいへん意欲的な取り組みが見られ、単元テストのゴール設定は生徒の実態に合ったものであったと言える。また、単元テストの結果などから、一般動詞の三単現形の定着も良好であった。

⑥ 生徒の変容

シラバスを継続的に提示してきたことで、めざすゴールを提示されることに慣れ、目的をもった取り組みが日常になってきたように感じた。

実践 2

① 単元名 New Horizon English Course 3
「英語版災害案内を作ろう！」(Unit4)

② 目標

色々な疑問詞+to~の用法を知り、それらを用いて災害のときに必要な情報を災害案内としてまとめることができる。

③ 校内研修とのかかわり

Unit 4 の自然災害に備えることの大切さを考え、英語版災害案内を作る、という身近なことを単元のゴールとしたことで、生徒が積極的に取り組めるようにした。

④ 授業の概要

(1) 本時の目標

- 疑問詞+to~の用法を知り、それらを用いて災害のときに必要な情報を表現することができる。

(2) 展開

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援	
		T1	T2
つ か む (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting ・ Warm-up 1 キーセンテンス ・ Warm-up2 既習事項を用いた QA ・ 本時の目標確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習のキーセンテンスカードを見せ、口頭練習させることで定着につなげる。 ・ 答えられたら座るよう指示する。 ・ T2 との対話内容から、本時では前時の how to に加え、他の疑問詞も使うことを推測させ、めあてを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーセンテンスの板書。 ・ クラスの半分の生徒に質問する。 ・ T 1 とロールプレイ
めあて 疑問詞+to を使って、災害の時に必要な情報を表現しよう。			
追 究 す る (27分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問詞+ to の導入 what to~ when to~ where to ~ ・ ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十分に口頭練習したあと、ペアになり、カードの絵を見て色々な疑問詞を使って I know (疑問詞) to~の文を練習する。 ・ ポイントを競わせることで、楽しく取り組めるようにする。 ・ ワークシートで文の構造を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各ペアの支援。 ・ 下位群支援
ま と め る (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害のときに必要な情報を色々な疑問詞を使って表現する。 ・ 振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 途中、なるほどといった例となる表現をクラスに紹介させることで、本人に自信をつけさせるとともに、生徒の表現の幅を広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下位群支援
<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おおむね満足：例の単語を参考に how to を使って表現することができる。 ◎十分満足：how to 以外の疑問詞を使って、自分の考えを表現することができる。 <p>(観点・評価方法)【表現・ワークシート】</p>			

⑤ 実践を終えて

本時は、疑問詞+to~の用法を知り、色々な疑問詞を用いて「英語版災害案内を作る」という単元のゴールに向けて、災害のとき必要な情報を書くことがねらいであった。疑問詞+to~の用法を導入したあと、その用法に慣れるためゲーム形式を用いた。全体からグループへと、ひとりひとりが自信をもって活動に参加できるよう十分に口頭練習を行った。そのことで、ワークシートの活動に各自がスムーズに取り組めたと思う。また、途中で良く書けた生徒数人に発表をさせた。このように途中の振り返りを入れたことは、良い文が書けた生徒にとっては自信につながり、下位群の生徒にとっても良い例の参考となった。このことから、途中の振り返りは有効であると考えられる。また、シラバスの提示は、生徒が見通しをもって学習へ取り組める手助けとなるので、引き続き活用を継続していきたい。単元のまとめでは、2020年の東京オリンピックへ向けても、英語版災害案内を役立てたいとの記述があるなど、意欲的な取り組みが見とれた。

⑥ 生徒の変容

シラバスの活用で、時間毎・単元毎のめあてに沿って意欲的に学習に取り組むことができる。また、途中の振り返りは、クラス全体の表現力を上げることにもつながることができると感じた。

3 実践の成果

単元のゴールを継続的に提示することによって、生徒は「今回の単元ゴールは何だろう？」と、自然に意欲的に受け止め、それに向けた各時間の活動にスムーズに取り組めるようになってきている。

今年度は、振り返りの段階で、授業を通して分かったことなどについて振り返って自分の言葉でまとめる活動に加え、その時間に学習した文法事項を用いて一文で表現する「Let's write!」も加えてみた。TT指導を活かし、その場で生徒が書いた一文を一人一人添削し、全体へのフィードバックまでした。生徒は、その時間に新しい表現として何を身につけるべきなのか改めて確認でき、基礎・基本の定着につながったと思う。

生徒は、必然性があり、生徒にとって興味あるゴールを提示してそれへ向けた道しるべ(シラバス)を示すことで、主体的に学習に取り組もうとすることを改めて実感した。

4 今後の課題

- ・3年間の学習内容を見通したより魅力的な単元ゴールの設定
- ・シラバスの作成継続・内容改善
- ・シラバスのファイリング・英語部会内での共有
- ・シラバスとCAN-DOリストとのリンク

音楽科の実践

1 ねらいに迫るための手立て

日本らしい楽器、箏に触れて各部名称や奏法の基礎を学ばせたい。ペアによる学習を通して協力しながら楽器の準備、片付け、調弦をできるようにしたい。また、平調子の独特な音階や爪を付けて弾くことなど箏の特徴に親しみ日本古来の楽器に関心を持てるようにしていきたい。

毎時間振り返りとともに次回への目標を自身でも考えて「もう少しやってみたい、できるようになりたい」という意欲の持続に努めた。

2 実践例

実践

① 題材名 箏の表現を味わいながら

教材名 箏を弾いてみよう「さくらさくら」

② 目標 二人で協力して箏の調弦をできるようにする。

③ 校内研修とのかかわり

音楽科の箏の学習では、授業の見通しをもたせるためにプリントに毎時間の目標を示して、やることを明確にするよう心がけた。その目標に対して振り返りを行い、次回の授業に向け教員から示す目標とは別にやりたいこと、できるようにしたいことを記述するようにした。そうすることによって、学習の一連の流れをひとりひとりがつかむとともに、それぞれが自らの目標、目的をもって毎回の授業に臨めることを。

④ 授業の概要

(1) 学級 1学年2組(男子13名、女子13名)

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
15分	<ul style="list-style-type: none">・ 箏の持ち運び、柱の立て方、爪のはめかたを知る。・ ペアでイスを3つ用意する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">めあて 二人で協力して箏の調弦をできるようにしよう</div>	<ul style="list-style-type: none">○教科書を使い箏の各部分の名称を知り、すわる位置や爪の向きの確認をペアでおこなう。○箏の鑑賞を思い出すよう声をかける。
	<ul style="list-style-type: none">・ 箏の基礎的な奏法の習得・ すべての弦に柱を立て、平調子に調弦する。	<ul style="list-style-type: none">○『柱を立てる』というような特徴的な言い方を積極的に使用する。○平調子の音階をピアノで弾き、四のドを最初に合わせる。○難しそうな班は調弦を手伝う。できた班が他を手伝うのも良いこととする。

25分	(・教科書の練習曲を練習する。)	<input type="checkbox"/> 調弦ができたなら器楽の教科書33ページの練習曲をやってみる。 <input type="checkbox"/> 二人とも練習できるように声をかける。
	【評価項目】 <input type="checkbox"/> 柱を立てる場所を動かすと音の高さが変わることを理解し、正しい音をさがしだそうとする。 <input checked="" type="checkbox"/> 柱を立てる場所を動かすと音の高さが変わることを理解し、正しい音をさがしだせる。	
10分	・片付けをする。	<input type="checkbox"/> 二人で協力し、丁寧に扱う。

⑤ 実践を終えて

- 単純に楽器を目の前にしたら音を出したいという素直な気持ちを感じた。
- 楽器を大切に扱うことができた。

⑥ 生徒の変容

- ペアの二人で協力して、さらに他の班にも協力を求めたり助けたりしながら、言葉を発することは多くなったが、関係のない会話をすることはほとんど見られなかった。

3 実践の成果

- 明確な目標を持って取り組み、次時への見通しをもつことによって学習へ集中しやすくなった。
- プリントの「次回の授業でやりたいこと」という欄に具体的な内容を多くの生徒が記入していて自ら目標を持って学習に取り組むことができていた。

4 今後の課題

- 振り返りの時間を十分にとって目標にどの程度近づけたか考える時間が必要だった。
- 指示がしっかりと通るように楽器の練習中は完全に手をとめる必要がある。

保健体育部会の実践

1 ねらいに迫るための手立て

保健体育科では、学習カードや学習プリントを「振り返る学習活動」に利用している。その主な目的は、課題学習を通じて、生徒が振り返る学習活動を自らのステップアップに活かすことである。ステップアップさせるためには、授業の導入で生徒が興味関心を持てるように「めあて」を提示し見通しを立てさせる必要がある。特に保健の学習では、興味関心を持てる「めあて」となるような日常生活に関連した健康問題などの内容を取り上げるように工夫した。

2 実践例

① 単元名 心身の機能の発達と心の健康「生殖機能の成熟」（1年）

② 目標

受精と妊娠のしくみを理解し、射精や月経が起こるようになった意味を考えることができる。

③ 校内研修とのかかわり

本時の学習課題は、「思春期に射精や月経が起こるようになるのはどうしてかを考える」である。前時までに学習した正しい知識をもとに射精や月経が起こるようになった意味を考えるさせるため、授業の導入において復習を T 1（保健体育科教諭）と T 2（養護教諭）が役割分担をして指導を行った。生徒が興味を持って授業に取り組めるようにパワーポイントの資料を準備するなどして正しい知識の確認を行い、本時の授業に見通しを持って取り組めるようにした。

④ 授業の概要

授業の導入で、新生児の大きさ・重さを体感できるように赤ちゃん人形の抱っこ体験や胎児の超音波画像を見るなど生命に関する教材を準備し、生徒の興味・関心を持たせるようにした。展開では、T 2 が説明した精子や卵子の特性を参考にしつつ受精する場所と胎児が育つ場所を考えさせた。（個人で考え、グループで交流させた。）そして、終末では思春期に射精や月経が起こるようになった意味を考えるへとつなげるようにした。

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ 10分	1 前時の復習を確認する。 2 実際の新生児の大きさ・重さを体感する。(代表者) 3 お腹の中の胎児の様子を超音波画像の写真で見る。 4 生命は何と何が結合することにより誕生するのかを考える。	○前時の復習をすることで本時の学習への興味や関心をもてるようにする。(T1) ○代表者が新生児の人形を抱き、体感してもらおう。(T1) ○自分自身を振り返らせ、どうやって生まれたのかを想像させる。(T2) ○めあてを提示し、見通しをもって臨めるように促す。(T1)
	【めあて】 思春期に射精や月経が起こるようになるのはどうしてだろうか。	
追究	5 射精と月経のしくみを知る。 しくみを理解すると同時に個人差があ	○画像を見ながら、しくみを説明する。(T2) ○個人差についても説明する。(T2)

<p>する 30分</p>	<p>ることを理解する。 6 子宮の図を使い、受精する場所と胎児が育つ場所を考える。理由についても考える。まずは、個人で考え班で考えを交流しまとめて発表する。 7 受精と着床と妊娠について知る。 8 受精卵の大きさを知る。</p>	<p>○受精する場所、胎児が育つ場所や理由を考えさせる。(T1、T2) ○受精卵となる場所や受精卵が子宮に着床して妊娠が成立し胎児が育つことを伝え、生殖機能が成熟している自分の体を大切にしていこうと伝える。(T2) ○ワークシートにある穴を確認させ、いかに受精卵が小さいかを確認させる。(T1)</p>
<p>まとめる 10分</p>	<p>9 射精や月経が起こるようになったのはどうしてかを考える。 10 授業の振り返りを発表する。</p>	<p>○本時の学習から「射精や月経が起こるようになったのはどうしてか」考えさせる。(T1) 【評価項目】(観点：思考・判断、評価方法：ワークシート) ○生殖機能が発達し、射精や月経が起こるようになり、妊娠が可能になるということが考えられる。 ◎生殖機能が発達し、射精や月経が起こるようになり、妊娠が可能になるということが考えられ、自分の体を大切にしていこうと考えている。 ○自分を大切にするとともに他者のことも大切にすることを伝える。(T1、T2)</p>

⑤ 実践を終えて

○性にかかわる授業なため恥ずかしさを感じている生徒もいたが、真面目に取り組んでいた。

⑥ 生徒の変容

○性に関する正しい知識を身に付けると共に、生命を生み出す体に成長していることが実感でき、自他を大切にしようとする気持ちが高まった生徒が多くいた。

3 実践の成果

○導入段階で、正しい知識を説明し興味・関心を持てるように工夫したことは、見通しをもって授業に臨むことにつながった。

○性にかかわる授業に養護教諭と一緒に授業づくりをしたことは、養護教諭の専門性を活かしつつ生徒が健康について考えるためにも効果的であったと思われる。

4 今後の課題

○生徒が受精する場所と胎児が育つ場所を考える場面において、教科書を活用せずに考えさせる必要があった。

○授業で学習したことを活かし日常生活において健康につながる行動がとれたり、将来のことを考えての健康の保持増進を心がけたりできるように、保健体育の学習で興味関心が持てるような授業を工夫していきたい。

Ⅲ 研究の成果と課題



1 研究の成果

(1) 授業実践における共通理解について

- ・実践を進める中で見通しを立てて振り返る学習の実践を行い、事例の蓄積ができた。
- ・各教科における目指す生徒像及び振り返り学習についての作成・及び見直しを進めることができた。また、振り返る学習の観点と振り返りであらわれて欲しい生徒の姿を観点ごとにまとめ、授業実践に活かすことができた。
- ・研究授業を参観する際、授業参観シートを活用したことで研修の視点、本時のめあて、研修の手立てが明確になり、その後の授業研究会もより効果的なものになってきた。
- ・教科部会ごとに全国学力学習状況調査の結果分析を行ったことで、全ての職員が本校の学習に関する課題について把握し、問題についても理解することができた。

(2) 授業実践より

- ・学年部会を中心に指導案検討・授業研究会を行い、手立てを共有し授業の成果や課題を日常の実践に生かすことで、教科を越えて研修を進めることができた。また、学年部会で行うことにより生徒の他教科での学習の様子を参観できたことで、生徒理解にも繋がった。
- ・生徒に提示するめあてについて、授業検討会で検討する際に、生徒の立場の視点から教科外の教師の意見が大変役に立った。専門的な言葉ではなく、誰が聞いても分かりやすい言葉をめあてに使ったことにより、生徒により伝わりやすいものとなった。
- ・振り返り活動については、生徒に振り返らせている時間に先に書いている生徒に発表させたことで、振り返りの交流や、何を書けばよいか悩んでいる生徒へのヒントとなった。
- ・指導案に、生徒に到達して欲しい姿（目標とする生徒の意識等）を現したことで、めあてや振り返り活動に活かす、授業内容もしぼって授業をすることができた。また、生徒の書いた振り返りの内容は到達して欲しい姿に近いものとなった。
- ・シラバスの改善として活動内容だけでなく学習内容の振り返りにも活用できた。授業者がその場で評価・指導することで、基礎的・基本的な内容の定着に繋がった。

(3) 実践における生徒の変容

- ・めあての掲示と授業の終末に行う振り返り学習が浸透してきている。はじめ、振り返りに書くことができなかつた生徒が、繰り返す中で書けるよう変容が見られた。また、生徒の書く分量も増えてきた。
- ・めあての中に本時に取り組むことが入っている、という見通しが生徒の中に定着してきて、予想などがスムーズに書けるようになってきた。振り返るときにもめあてを再確認する習慣が身に付いてきており、1時間が生徒にとってまとまりのある追究活動になってきている。
- ・振り返る活動では、授業のめあては何だったか生徒が気にするようになり、それができた生徒は達成感を感じていた。

(4) 学習習慣等

- ・学習ノートを家庭での振り返りとする中で、家庭学習の習慣が身に付き、基礎的・基本的な学習事項の定着につながっている。
- ・学習の手引きの各教科の内容の項目を統一し、生徒に紹介することができた。

2 研究の課題と解決に向けての取り組み

(1) 課題

- ・授業実践の中で生徒一人一人がめあてを捉えきれているのか、グループ活動では分からない実践もあった。
- ・振り返らせる内容によっては生徒の感想程度となってしまうことがあった。
- ・行事の合間などの忙しい中での研究授業では、参観者が少ない実践もあった。
- ・毎時間の授業における振り返り学習を充実させていく。

(2) 課題解決に向けての取組

- ・生徒一人一人が個人の意見を持ってグループ活動に臨むなど、「どのように学ぶのか」について先行文献研究や実践研究を進めたい。
- ・各教科で示した「伸ばしたい資質・能力」を明確にした授業づくりを進めていく。また、実践を通して各教科の見通しを立て、振り返る活動について見直しが必要なものを修正していく。
- ・学年部会ごとの研究授業に今年度から変わったので、日頃の生徒指導に活かすため等、意義を伝えていき、意識を高めていく。
- ・日頃の授業においても生徒が見通しを立て、振り返る活動について意識した指導をしていく。
- ・授業実践で学んだ手立ての工夫や技能を共有し、日常の実践に生かす。

IV 学校要覧



資料1 各教科における目指す生徒像及び振り返る学習 H30年度 沼田市立薄根中学校

教 科	<p>【目指す生徒像】 ○既習の知識・技能を活用し、根拠や理由を明確にして課題を解決することを通して、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒</p> <p>【見通しを立てる】 ①めあての明確化 ②生徒が解決したくなるような学習課題 ③学習の流れの提示 ④疑問が生徒から湧くような活動 ⑤単元を見通せるシラバス等の活用 等</p> <p>【振り返る学習】 ①事実の確認 (○○だった、○○ではなかった) ②関係性や一般化の生成 (□□の間には△△な関係(法則)がある、□□は△△の一部である) ③自己変容の認識 (○○ということが分かった、分からない、○○ができるようになった、まだ○○はできない)</p>
国 語	<p>○他者の考えを知り、自分の考えと比較することで、違いや良さ、足りない部分に気づき、自分の考えを深めたりまとめたりする生徒</p> <p>○目当てを明確にし、学習の流れを示す(言語化、可視化等)。 ①その日の学習内容を次時にどのように活かすかを、自分の言葉で善いたり話したりする。 ②獲得した知識などから、興味関心を広げたり自分の表現に活かす方法を考えたりする</p>
社 会	<p>○様々な社会的事象を組み合わせて自分の意見・考えをもつ生徒</p> <p>○課題を意欲的に解決する生徒</p> <p>○資料をもとに読み取り考えたことを、言葉や図表を使って振り返ることができる生徒</p>
数 学	<p>○主体的に学習に取り組み、既習の知識や考え方等を活用して、課題解決に取り組む生徒</p> <p>○例えば、「前時の復習」→「今日の学び」→「問題練習」→「振り返り」といった学習の流れの提示</p> <p>○授業で学んだ用語や板書等のキーワードをもとにして、本時の学習過程や学習内容について自分でまとめ、表現する学習</p>
理 科	<p>○自分の考えをもって人に伝えたり、友達の考えを聞いて比較したりしながら自分の考えを深めていくことのできる生徒。</p> <p>②単元を通じた目標を示す ③実験をするとき予想を立てる ④実験前の共通体験</p> <p>○事象や現象を自らの言葉(科学用語、化学式やモデル、図、表やグラフ)で表現する学習</p>
英 語	<p>○既習事項等を活用でき、コミュニケーションなどの言語活動に主体的に取り組む生徒</p> <p>①本時のゴールを提示 ②必然性のある課題設定 ③本時の学習の流れの提示 ⑤単元を見通せるシラバス等の活用 等</p> <p>①②③授業や単元のゴールにあたる終末部分において、シラバスで提示した「ねらい」に沿って、授業を通して分かったこと、できるようになったこと、これからやってみたいことなどについて振り返り、自分の言葉でまとめる活動</p>
音 楽	<p>○友達と意見を交わし合い、豊かな表現を追求し、表現活動に取り組む生徒</p> <p>○曲の特徴をとらえ、音楽的な要素と結びつけて考えられる生徒</p> <p>○生徒の技能に応じた目標を各自に立てさせる</p> <p>○楽曲から聴き取ったことや表現したいことを伝え合い、高め合う活動。</p> <p>○めあてについて、音楽的な要素と結びつけながら考えるとともに自分の言葉で記述する。</p> <p>○仲間と協力して、課題に応じた解決方法を見いだせる生徒</p>
保 体 健 育	<p>○単元の活動計画や、各種目の目標を生徒に立てさせる</p> <p>○運動の技能の向上や、体方向上における自己やグループの課題を、見いだしたり伝え合ったりする活動</p> <p>○課題を解決するための解決方法を、見いだしたり伝え合ったりする活動。</p>
道 徳	<p>○自らを律する節度と、温かさをもって、人と接することができる豊かな心を身に付けた生徒</p> <p>○授業の終末で、道徳の授業を通して確認できた自分の意見や友達の意見を振り返り、自分の言葉でまとめる活動。</p>

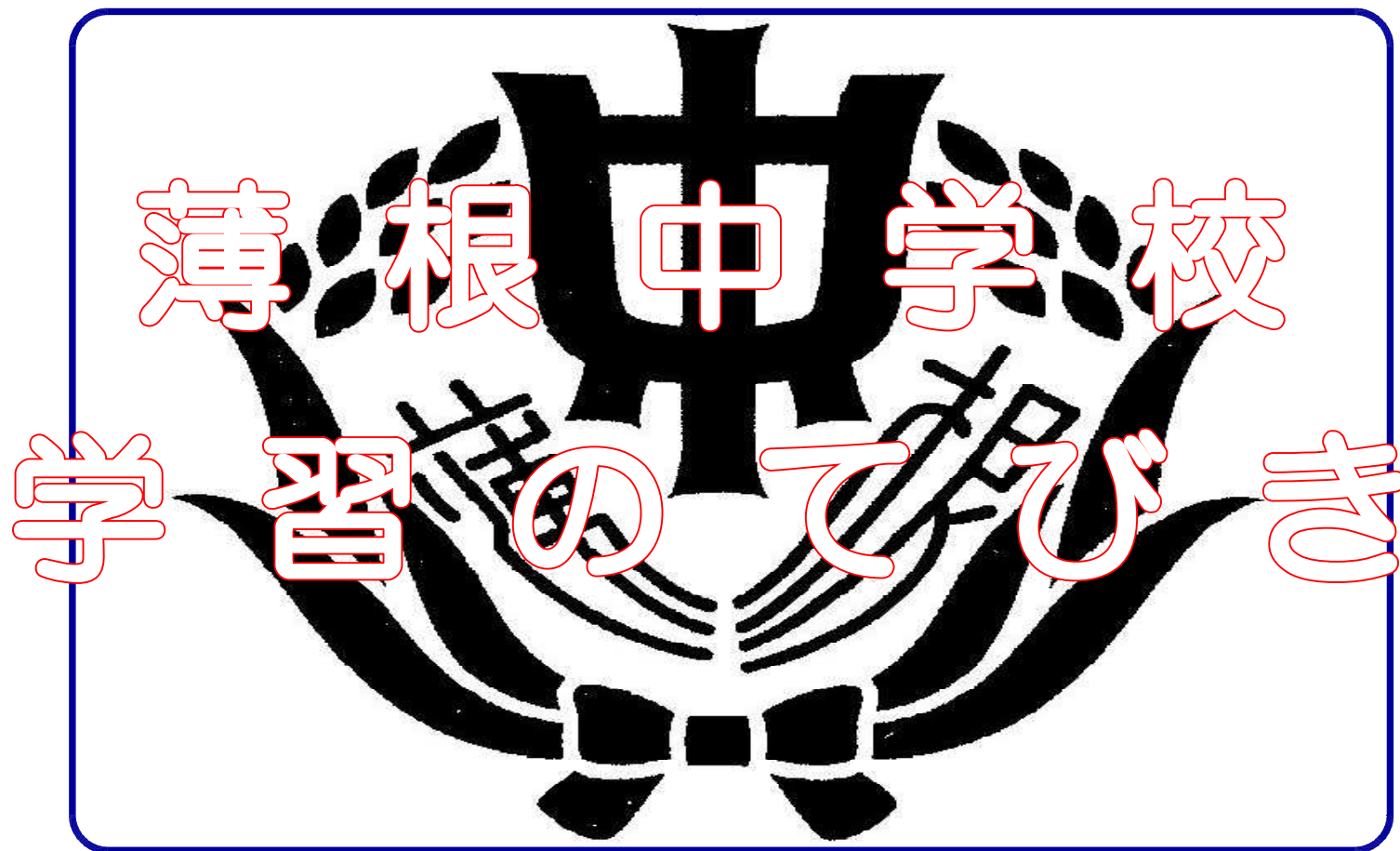
H30 授業実践 成果と課題

月日	内 容	
		<p>○研修の視点…共通実践する「手だて」に基づいて具体的に記述する</p> <p>◇めあて …授業で生徒に提示しためあてを記述する</p> <p>◎成果 …共通実践した手だてについての成果を記述する。</p> <p>・課題 …共通実践した手だてについての課題を記述する。</p>
6.21	<p>3年 理科</p> <p>「酸とアルカリ」</p> <p>授 鈴木教諭</p>	<p>○授業のはじめに生徒の分かりやすい言葉でめあてを提示したこと、モデルを使って予想を立てさせたことは生徒に見通しを持たせるために有効であったか。</p> <p>◇①酸性を決めるイオンを見つけよう ②アルカリ性を決めるイオンを見つけよう</p> <p>◎「酸性を決める」という表現が生徒にも分かりやすく、生徒の探すものが明確となった。</p> <p>・まとめや振り返りの段階で、最初の説明に使用した図に戻って活用できるとよかった。</p> <p>・振り返りについては発展問題は扱わない方が良い。</p>
6.27	<p>1年 保健体育</p> <p>「心身の機能の発達と心の健康 生殖機能の成熟」</p> <p>授 反町教諭</p>	<p>○めあてを明確化したことは、生徒が見通しを持つために有効であったか。</p> <p>◇射精や月経が起こるようになった意味を考えよう。</p> <p>◎養護教諭と連携した授業を行えた。ワークシートに書き込む工夫をしたことで生徒が本時の内容を振り返るよい材料となった。</p> <p>・めあてについては生徒はよく理解できたが、予想を書くときに生徒が教科書を見てしまう場面もあった。生徒の力だけで書けるよう注意が必要だった。</p>
9.6	<p>1年 社会</p> <p>「平安文化と浄土信仰」</p> <p>授 宮内先生</p>	<p>○学習の流れが分かるようワークシートを活用したこと、振り返り活動で生徒の到達点を教師側で用意したことは有効であったか。</p> <p>◇仏教にどんな新しい流れがうまれたのか</p> <p>◎授業終末の振り返り活動において、生徒に到達して欲しい姿を指導案に現したことで授業の内容もしぼって授業をすることができた。</p> <p>・めあてを提示するとき、前の時代の仏教と比較できると本時の振り返りに生かせた。</p>
9.27	<p>3年 英語</p> <p>「Unit4-1 To Our Future Generations」</p> <p>授 坂本先生</p>	<p>○問題解決的な課題を設定し、シラバスで説明したことは、表現の幅を広げるために有効であったか。</p> <p>◇疑問詞+ to ~を使って、災害のときに必要な情報を表現しよう。</p> <p>◎授業終末のワークシートにおいて、途中、振り返りの時間を設け、友だちの例を参考に挙げたことは良かった。</p> <p>・シラバスの提示のタイミングや、活用の仕方をその都度考える必要がある。</p>
10.11	<p>3年 社会</p> <p>「私たちの生活と地方自治」</p> <p>授 遠峯先生</p>	<p>○単元の終末において、沼田市を活性化するための話し合いの場を設定し、見通しをもたせてから話し合い活動を行ったことは、プランを意欲的に考えたり、多面的・多角的に議論したりするために有効であったか。</p> <p>◇沼田市を魅力や活力あるまちにするにはどうすればよいか考えよう。</p> <p>◎授業導入時に活動の説明や先生の提案があったことで、本時の活動に</p>

		<p>ついてよく分かった。生徒は見通しを持つことができた。</p> <p>◎目標とする生徒の意識を記述し、生徒がそれに近い振り返りを書くことができた。単元を通した目標の設定もあり、既習事項をうまく活用した内容の濃い意見を生徒が出すことができた。</p> <p>・ビブリオバトルの結果を更に深められるとよかった。時間の関係もあるが、意見交流後の活動などがあると生徒の意見を更に検討することができる。</p>
10.16	<p>1年 英語</p> <p>「大好きな人を、友達に紹介しよう！」</p> <p>授 T1 藤井先生 T2 林先生</p>	<p>○シラバスの活用は、生徒が本時や単元を見通した活動を行う上で有効であったか。</p> <p>◇いろいろな動詞を使って、大好きな人の紹介文を書こう。</p> <p>◎シラバスの改良がされており、振り返りの文章も入っていた。シラバスを活用することで、単元を通してよいまとめとなっている。</p> <p>◎生徒が振り返りに「次の時間には〇〇がしたい」というように、次時への課題を書くことができた。単元を見通すことができている。</p> <p>・生徒の振り返りを紹介し、よい気づきを共有していくことが今後の課題である。</p>
10.25	<p>3年 数学</p> <p>「ピラミッドの高さの求め方を考えよう」</p> <p>授 浅見先生</p>	<p>○学習課題を工夫し意欲的に活動に取り組ませることは、相似な図形の性質を利用して課題を解決するのに有効であったか。</p> <p>◇相似な図形の性質を利用して、ピラミッドの高さの求め方を考えよう。</p> <p>◎相似な図形の性質を利用してピラミッドの高さを考えることで、生徒は見通しをもって活動することができた。</p> <p>・映像で学習課題をとらえさせるだけでなく、具体物を用いるなどの工夫をすることで、課題が身近に感じられると思われる。</p> <p>・目標とする生徒の意識を、生徒の主体的な学びとしてとらえたい。</p>
10.30	<p>1年 数学</p> <p>「比例反比例の利用」</p> <p>授 齋藤先生</p>	<p>○具体物を使って問題を把握させたことや、振り返り活動を予想させたことは、生徒に見通しを持たせるために有効であったか。</p> <p>◇比例を利用してビーズ1個の重さの求め方を説明しよう。</p> <p>◎具体物や ICT を用いることで興味を引きつけることができた。また、めあての一部を（ ）にすることで、生徒に考えさせたり、比例を強調することに繋がった。</p> <p>・もとめ方の説明を考えさせる際に、個別で考える時間を設けたい。</p>
10.31	<p>3年 国語</p> <p>「校歌・合唱の歌詞を書こう」</p> <p>授 兵藤先生</p>	<p>○合唱の歌詞から題材を選び、作品として仕上げる活動は、書写の技能を高めるために有効であったか。</p> <p>◇行書の特徴を生かし、文字の大きさや配置を工夫して「あなたへ」を書こう。</p> <p>◎先生のお手本が一人一人に渡され、黒板に掲示してあったことで見通しが一目でもてるよい手立てであった。最後は生徒の作品の提示になったが、成果が全員で見渡すことができた。</p> <p>・ワークシートの記入について、「どう思ったか」だと、めあてと生徒の振り返り</p>

		返りにブレがでることもあるので、発問に工夫が必要であった。
11. 6	2年 国語 「古典世界に 生きた人々の 思い」 授 大河原先生	○平家物語（敦盛の最期）の登場人物の人物像を読み取るために、取材メモを用いて交流活動を取り入れたことは有効であったか。 ◇新聞記事作りのための取材（読み取り）を通して、取材対象がどのような人物であったか評価しよう。 ◎取材メモを用いて交流活動したことで様々な意見交換ができ、活発な活動ができた。また、交流によって、自分の考えに迷いが出たり、確信がもてたりするなど、読み取りが深められた。 ・交流の話題になる「疑問点」が難しく、人物像の根拠が弱いまま交流活動に入ってしまった。人物像をあらかじめしっかりともたせてから、その根拠となる「疑問点」を考察させていくべきであった。
11.10	1年 音楽 「箏を弾いて みよう」 授 小宮先生	○ペアで協力することを強調したことは技術の向上、意欲の向上に有効であったか。 ◇二人で協力して箏の調弦をできるようにしよう。 ◎わからないことがあった時、聞きやすい雰囲気できて修正を素早くできていた。 ・音が鳴っていると指示が通らないので必ず静かにさせてから全員に指示を出すべきであった。

平成30年度



はじめに

誰もが「できるようにになりたい」と考えている学習には「コツ」があります。コツをつかむことで、短い時間でも十分な効果をあげることができます。ここに書かれていることを実践し、自分に合う学習方法を見つけていきましょう。

授業では・・・

- タイム着席を心がけましょう。準備や教室移動は5分前に。
- 道具がすべてそろっているよう、連絡黒板の内容をライブに書きましょう。
- 先生の話をよくききましょう。 3つの『きく』①聞く ②聴く ③訊く
- ノートを取りましょう。黒板の文字の他にも授業の疑問点や先生の話などを一緒に書き込んでおきましょう。
- よい姿勢を心がけましょう。
- 分からないところは質問しましょう。授業終了後や職員室でも気軽に訊いてみましょう。
- 積極的に発言や課題、実験をしましょう。自主的に動くことが一番効果的な学習です。

家庭では・・・

- 翌日の準備を前日にしましょう。「ちょっと余裕がある」と、学校生活を楽しめます。
- 宿題を最優先させましょう。
- 学習開始時刻を決めておくと、それが習慣になります。
- 家庭学習の基本は復習です。今日習ったことや、テストに向けての学習をしましょう。
- 予習をしておくと、授業が「内容が分かっている良い気分」で受けることができます。
- 学習する場所を決めておくとよいです。なるべく机と椅子がある場所がよいです。
(長時間座ってられる場所がベスト)
- 「ながら勉強」にならないよう気をつけましょう。(TV、音楽、動画、SNSなど)
- 学習よりも注意の向いてしまうものを近くに置かないようにしましょう。
(ゲーム、マンガ、音楽プレイヤーなど)
- 学習したものを自主勉強として提出しましょう。学習は誰かに認めてもらったことが自信につながります。

テスト前には・・・

- 出題の傾向と範囲をつかみましょう。教科書やワークの問題は要チェック！
- テストに間に合うように準備をしましょう。
「前日に徹夜」よりも「2～3週間前から余裕をもって」。
- 「分からない」をテストまでに「分かる」に変えましょう。
- 時間が経つと覚えていたことも忘れます。確認を忘れずにしましょう。
くり返し覚えたり問題を解いたりすることで効率良く覚えることができます。

国語科編

すべての学習の基本となる教科です。文章が読めないと、学力はつきません。

授 業

- 授業に集中できるよう、積極的な姿勢で授業にのぞもう。
 - ・準備をしっかりし、提出物を必ず仕上げよう。
 - ・丁寧な文字で書き、習った漢字は積極的に使い、色を工夫したり独自のメモを加えたりして充実したノートを作ろう。
 - ・積極的に発言・質問しよう。人の話をうなずきながらしっかり聞こう。

復 習

- 新出漢字・全学年の漢字の練習・テストをしよう。(間違っものは再度練習)
- 漢字を正しい書き順で書けるように練習しよう。
- 学習したところの文章を繰り返し読もう。
- 単元で出てきた難しい語句の意味を調べ、短文を作ろう。
- ノートやプリント、ワーク、問題集、テストを繰り返しやろう。

テ ス ト 対 策

- 日々の授業で主体的に考える習慣をつけておく。
- ワークやプリント等に取り組み、テスト前に見直しておく。

そ の 他

- 作文や新聞記事の感想などいろいろな文章を書く ○手紙を書く
- 資料集で勉強する ○漢字検定に挑戦する
- 読書をする(自分の力に応じて、少し難しい本、代表的な日本文学の本や外国の本等)
- 古典作品や詩を暗記する。○学んだ敬語を積極的に使う ○スピーチ練習(録音をしてきく)
- 教科書以外の漢字やことわざ、四字熟語、慣用句、故事成語など書き取って覚える。

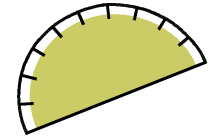


数学科編

「考え方の基本」となるのが数学です。世の中を知りたければ数学を学ぼう。

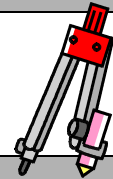
授 業

- 自分で考える、友達と一緒に考える、考えたことを発表したり説明したりしよう。
 - ※積極的に発表する・考えることが、数学を楽しむコツです。
 - ※数学を楽しむことが理解への近道です。
- 疑問点はすぐに質問。授業中に「？」はなくしておこう。



復 習

- ノートとプリントでその日の授業を振り返ろう！ポイントはどこだったかな？
- 計算など練習問題をたくさんしよう。



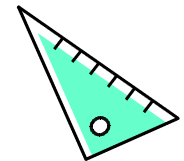
テ ス ト 対 策

- 教科書やワークの問題を中心に、繰り返し問題を解いてみよう。
- 自主勉強のノートや振り返りカードを通して、不明な点等を積極的に質問しよう。

そ の 他

- 丸付けまでが大事な勉強。しっかりと確認しよう。
- 間違いを大切に、正しい解き方や考え方を身に付けよう。
<<間違い→どこが違うのか確認する>>

★今が数学好き、得意になるチャンス!!!一緒にがんばろう★★



社会科編

「最も世の中で使える教科」と言えるのが社会です。一般常識でもあります。知らないと恥ずかしい。

授 業

- 授業前に前回学習した内容を確認しておこう。(特に歴史は前の時間とのつながりが大きい!)
- 次回学習する教科書の場所を必ず読んでおこう。
- 読んで意味の分からない言葉は辞書を引いて意味調べしておこう。
- 資料から多くの情報を読み取ろう。
- 複数の資料を結びつけて読み取ろう。
- 読み取ったことから時代や地域の特色を考えよう。
- 用語集以外に国語辞典を持参し、分からない言葉は意味調べしよう。

復 習

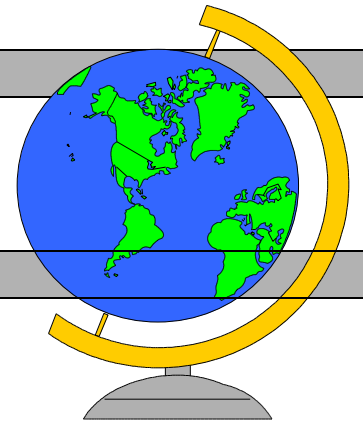
- ノートを見直して学習内容を確認しよう。
- ワークを使って問題練習をしよう。できなかった問題は何回も解こう。

テ ス ト 対 策

- 教科書やノートを読み返そう。
- ワークを使って問題練習をしよう。できなかった問題は何回も解こう。
- 一度やった単元テスト等、繰り返し復習しよう。

そ の 他

- 新聞やニュースを読んだり見たりしよう。
- テレビで見た国や地域を地図帳で調べよう。
- 歴史小説を読んでみよう。

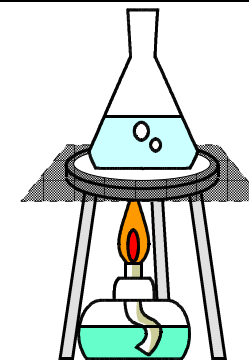


理科編

「生きるための知識」です。

授 業

- 理科は、「未知」を「発見」して「調べる」学問です。
授業での発見の喜びを楽しみましょう。
- 授業は前の時間の続きです。続きが分かるように、忘れ物がないようにしましょう。
- 授業を真剣に聞き、プリント・ノートにもれなく記入し、しっかりと保管しておきましょう。
- 観察・実験を人まかせにせず、自分から積極的に参加しましょう。
- 予想を立てて実験・観察しましょう。
- 自分の意見をもって積極的に発言し、授業に参加しましょう。



復 習

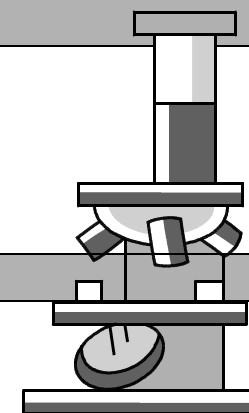
- 観察・実験の目的や方法、結果、考察等を中心に、ノートやファイルを見直し、整理してみましょう。
- ワークで学習内容が身に付いたかチェックしてみましょう。
- 用語や言葉が理解できているか確認して下さい。

テ ス ト 対 策

- 先生が出題する問題を予想してみましょう。
- 教科書やノート、ファイルをもう一度見直しましょう。
- テスト範囲のワークを**3回**やってみましょう。(くり返すことで脳は覚えます！)
- 単元テストをもう一度見直しましょう。

そ の 他

- 理科の資料集をながめるのも良い勉強です。
- 科学番組や雑誌、本を見てみましょう。
- 自由研究や理科研究発表会（11月）に挑戦してみましょう。(理科の先生に相談)



英語科編

「英語を話せると10億人と話せる」。日本の国際化はこれからも進みます。是非身につけたい力です。

授 業

- ノートに予習をしよう。
- (①新しい単語を調べる ②教科書本文を書く ③本文の意味を考えてノートに書く)
- 先生や友達の発言は、顔を見て聴こう。
- 大きな口と声で、英語を話そう。(間違えてもOK!)
- ゲームなどの活動は、ルールを守って大いに楽しもう。

復 習

- Bノートに単語・基本文の練習をしよう
- 音読練習をしよう。

テ ス ト 対 策

- キーセンテンスを繰り返し復習しよう
- プリントや単元テストやワークを繰り返し復習しよう

そ の 他

- ◎学習したことを用いて、自分ことや身の周りのことについて表現してみよう。
(日記、自己紹介、他己紹介、沼田の紹介、日本や日本文化の紹介等)
- 英検など、各種検定試験に積極的に挑戦しよう。

